

Citation: Sharif FNJ, Oliver R, Sweet C, Sharif MO. Interventions for the treatment of keratocystic odontogenic tumours (KCOT, odontogenic keratocysts (OKC)). *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2010, Issue 9. Art. No.: CD008464. DOI: 10.1002/14651858.CD008464.pub2.

CRG名: Oral Health

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 27 JUL 2010

Clib issue No.; N/U: 2010, Issue 9.

背景: 角化嚢胞性歯原性腫瘍(KCOTs)は、どの年齢層でも全顎嚢胞の約2~11%発生する可能性がある。約2:1の比率で女性よりも男性の方に多く発生する。良性腫瘍だが、KCOTsが局所的に非常に重症化したり、治療後に再発する傾向があり、3%~60%の再発率が報告されている。KCOTs治療の伝統的な方法は、外科的摘出である。しかし、腫瘍の取り残しが頻繁し、再発しやすいため、この方法だけでは不十分である。補助的外科的治療は、辺縁骨の除去(骨切除)、腫瘍切除とともに周囲骨も(ひとまとめにして)外科的摘出などが、提案されている。他にも提唱される補助治療法は以下のとおりである。残存組織への再発防止を目的として、液体窒素によるクライオサージェリー(凍結)、摘出後の嚢胞腔の固定カルノア液洗浄、およびその併用など。

目的: KCOTsの治療のための外科的介入と補助療法の有効性のエビデンスを評価する。

検索戦略: 検索に用いたデータベース: コクラン・オーラルヘルス・グループの臨床試験レジスター(2010年7月28日まで)、CENTRAL(コクランライブラリ 2010年第3号)、MEDLINE(1950年から2010年7月28日まで)、およびEMBASE(1980年から2010年7月28日まで)。特定されたすべての試験の参考文献リストより、追加試験をクロスチェックした。言語障壁は無かったが、いくつかの文献は翻訳されたものを用いた。

選択基準: 補助的治療の有無に関係なくKCOTsへの外科的介入の様式を比較したランダム化比較試験を選んだ。上顎または下顎の顎の骨に発生した孤立性KCOTsと診断された18歳以上の成人を被験者とした。既知のゴリン症候群(基底細胞母斑症候群)の患者は除外した。

データ収集と分析: レビューアは、選択基準にそって試験をスクリーニング。関連及び関連する可能性がある研究のフルペーパーを得た。4つ以上の研究がある時は、データを抽出し、固定効果モデルを用い、臨床的多様性がある場合は、ランダム効果モデルを用いてメタ分析を行い、研究間の異質性を検討する予定だった。

主な結果: 選択基準を満たしたランダム化比較試験は見つからなかった。

レビューアの結論: このレビューの目的とあうランダム化比較試験は無かった。したがって、このレビューで治療の有効性などについて言及することはできない。KCOTsの治療法を評価するためには、適切に計画実施されたランダム化比較試験の必要性がある。

(翻訳 豊島 義博・監訳 湯浅 秀道; JCOHR)
翻訳公開日: 2012年2月7日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。